

高齢者外出支援サービス事業について

(質問) 高齢者外出支援サービス事業には、一般タクシー助成と介護タクシー助成の2種類があります。両制度の違いを伺います。

(答弁) 一般タクシー助成事業、介護タクシー助成事業のいずれも、介護保険の認定を受けている在宅高齢者の外出を支援するため、タクシーを利用する際の運賃を助成するものです。

このうち、一般タクシー助成は、要支援1以上の方が対象となります。介護タクシー助成事業は、要介護1以上で、ケアマネージャーが、移動に車いすやストレッチャーのまま乗車できる特殊車両が必要と認められる方が対象となります。

(質問) 資料には、一般タクシー助成は676人、介護タクシー助成は806人の交付人数が記載されています。この交付人数の意味と、これとは別に助成券の交付枚数を教えてください。次に、サービスを提供する登録された事業者は何社あるか、運転手不足の声は聞いていないか、伺います。

(答弁) 交付人数とは、当該年度内においてタクシー助成の申請をされ、助成券を交付した実人数です。助成券の交付枚数は、一般タクシー助成は、令和3年度の8月からの開始で13,374枚、そのうち3,343枚が実際に利用されました。介護タクシーは年度当初からの開始で、21,888枚の交付に対し、5,814枚が実際に利用されました。

次に、事業者数ですが、一般タクシーの登録は9事業所、介護タクシーの登録は、22事業所です。運転手不足の声ですが、新型コロナウイルス感染の影響で、タクシー業界も売り上げが激減し、辞めた人も多いと聞きます。回復しつつありますが、ドライバーは思うように戻らず、人手不足が新たな課題となっているとのこと。

(質問) 一般タクシー助成と介護タクシー助成について、市として、これからどうしていくか、何か考えがあればお聞かせください。

(答弁) 一般タクシー助成は、始めて間もないこともあり、制度の周知に力を入れます。また、利用状況や利用者、タクシー事業者の意見を参考に、使いやすい制度になるよう研究してまいります。

【私の意見】 介護タクシー事業者は、隣接市などからも事業者を確保していると聞きます。しかし利用者の声を聞くと、なかなか予約が取れない、特に月曜日の午前中は難しいと聞いています。これから利用したい人は増えると思いますので、サービスを提供する事業者の確実な確保をお願いして質問を終わります。

保育園の延長保育について

(質問) 市内で延長保育を実施している保育園、こども園、合わせて36園について、入園児童数は何人で、そのうち延長保育を登録している児童数は、朝、夕、それぞれ何人か、また利用割合はどのくらいになるか、伺います。

(答弁) 延長保育を実施する36園の入所児童数は、令和3年4月1日時点 4,774 人です。このうち、早朝利用は 2,312 人で 48.4%、夕方利用は 2,765 人で 57.9%です。

(質問) 延長保育を行っている36園において、延長保育の疎密というか、園によって延長保育の利用が少ない所、多い所があると思います。最も低い園の利用割合、最も高い園の利用割合はどのくらいか、伺います。

(答弁) 延長保育を行っている36園のうち、最も低い園の利用割合は、安城こども園の早朝利用で 6.6%、最も高い園の利用割合はよさみ保育園の夕方利用で 94.3%です。

(質問) 近年になって、延長保育を始めた園が3園あります。延長保育のための開設経費、運用経費はどのくらいであったか、伺います。

(答弁) 延長保育を始める場合の開設経費、運用経費については、開設のための改修等はないことから、開設経費は特に必要ありません。

一方で運営経費としましては、新たに延長保育を実施した安城こども園、さくのこども園では、それぞれ現在配置している保育士のほかに、早朝利用のための保育士が2人、夕方利用のための保育士が2人必要となり、そのための人件費が必要となりました。

【私の意見】若い世代が安城市内に集まってくれるか、市外へ転出してしまいか、非常に大きな問題です。そういう観点からは、どこに住むか、キャスティングボードを握っているのは、子育てを担う母親、奥様だと考えます。

安城市の子育て環境はどうか、仮に今まではよかったとしても、今度とも良いか、点検することは非常に重要だと考えます。

まだ延長保育が実施されていない保育園がありますので、実施拡大の必要性を訴えて、質問を終わります。